

学校運営方針	A P (本校が求める生徒像) ・真理と正義を重んじ、心身ともに健康で豊かな心と高い志を持ち、社会に寄与できる生徒。 C P (本校が展開する教育活動) ・一人一人の進路実現に向けて、学習意欲の向上と確かな学力の育成を図る。 ・社会人として自立することの意義を理解させることで進路意識を高め、4年間を通したキャリア教育の充実を図る。 D P (本校を卒業するまでに身に付けさせる力) ・自分の考えをわかりやすく相手に伝える力。基礎学力の充実、自発的・主体的に学習を進める力。					
昨年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標				
昨年度は感染症拡大により特別活動等が制限されるなか、生徒会を中心に生徒自らが考える機会を様々な場面で作ることができた。多様な入学目的を持った生徒一人一人に対し、きめ細やかな支援がなされていることに対する本課程に対する期待は大きい。次年度、新学習指導要領完全実施に向けた準備を急ぎ、学校・家庭・地域社会の三者統合による教育力の向上を図り、地域社会から信頼される学校を目指す。昨年度大きく進展したICT活用を更に進め、魅力ある授業づくりを実践していく。入学から卒業までに、学校行事や様々な体験活動を取り入れキャリアパスポートを活用した体系的かつ具体的なキャリア教育の充実を図らなければならない。	○「行動を起こし、真価を勝ちとる」を意識し、令和4年度の新学習指導要領完全実施に向けた教育活動を展開する。	・「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有する。 ・生徒一人一人の「主体的・対話的で深い学び」を授業態度やレポート等で評価し、振り返る。 ・全職員で生徒・保護者等との関わりを密にして情報を共有し、必要に応じてSSWとの連携を図る。 ・生徒一人一人の実情に合わせた学年(学級)経営、教科指導を行う。				
	○定期的な生徒・保護者等との面談だけでなく、日常的な関わりの中で生徒の状況を把握し、全職員で共有する。	・ペアやグループで話ししたり、協力したりする経験を積み重ねる学校行事を実施する。				
	○『学力の3要素』(知識・技能、思考力・判断・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ力)を育成・評価する。	・「社会に開かれた教育課程」「主体的・対話的で深い学び」等の理念を実現するための教育活動を展開する。				
	○学びあい、支えあう教職員集団作り	・日々の教育活動や雑談を通じて互いに高めあい、教師力・学校力を向上させる。				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題		
教科指導	授業改善	不断の授業改善や学習環境を整えることで学習意欲向上に繋げ、学びに向かう力を育てていく。 授業内容の精選やICTの活用により生徒の興味・関心を高め、学びの楽しさを実感できるような工夫をする。	B A	B	・年度当初、3者(教員・保護者・生徒)で各教科・科目の観点別学習状況の評価や評定についての共通認識を図る。 ・各年次の総合的な探究の時間の推進をめざし、指導内容について共通認識を図る。 ・校務支援システムの変更に伴う対応(新教育課程科目登録、成績処理、各種登録の入力方法の研修を行い、職員への周知を行う。	
	授業規律の確立	単位未修得者を出さないために、主体的に学ぶ態度の育成をめざす。 欠席や授業の欠課をしっかりと把握し、家庭との連絡を密にして怠学による原級留置の防止に努める。	B B			
生徒指導	心の教育の推進	異なる年齢や職業など多様な差異から学びあ関係づくりを行う。 「規範意識とは、自己責任とは」について問いを立て、生徒にその本質的意味を伝え、自立した大人の思考や感性を磨かせる。	B B	B	・特別指導が少なかったのは評価できるが、感染症拡大の影響で、規範意識とは何なのかを正確に伝えきれていなかった。その反省を生かし、総合的な探究の時間と連携を図り、担任が適切に指導が行えるようにサポートしていく。 ・生徒会活動の活性化を図るために、教員が企画した案を実施するだけでなく、計画立案を教員と生徒会が協働できるように	
	生徒会活動の活性化	個人や生徒会としての意思決定が、集団としての合意形成に結びつくように生徒を支援し、生徒会活動・学校行事の活性化を目指す。 生徒一人一人の実情に合わせた活躍の場を設定し、その喜びを共有させる。 生徒会主導による美化活動を通して安全・快適な生活環境作りとマナーアップを図る。	A A A			
		特別支援教育の推進	「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」を作成し、特別な支援を要する生徒の資質・能力が生かせる進路実現を支援する。			A
進路指導	「学ぶこと」「働くこと」の理解と進路意識の高揚	外部講師や本校の先輩たちがどのような進路選択をしているか等の講話を通して、「学ぶこと」「働くこと」の意義を実感させる。 希望者にはハローワーク登録をし、正社員・アルバイトの斡旋を促すとともに健全な労働環境整備に努める。 ハローワーク・地元企業との連携によって在校生の職場開拓に努める。	A A A	A	・進学希望者に対し、奨学金や進学マネープランについて専門家から説明する機会を設け、学びを経済的な問題を理由にあきらめないようにサポートする。 ・夜間定時制の利点を生かし就職希望者に対して早期の勤労観・職業観の育成を図る。ハローワーク登録を促し、正社員・アルバイトの斡旋を促すとともに健全な労働環境整備に努めていく。	
		早期希望進路の具現化	入試の仕組みや勉強の仕方、就職の流れや求人票の見方などを具体的に指導し、進路選択の幅を広げる。 職場訪問を通して生徒の勤労意欲を高めるとともに、企業との関係性を深めて求人開拓につなげる。			A A
		特別支援教育の推進	「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」を作成し、特別な支援を要する生徒の資質・能力が生かせる進路実現を支援する。			A
	安全・健康指導	安全指導の徹底	感染症や猛威を増す風水害に伴う休校等の授業措置へフレキシブルに対応するために、意思決定のプロセスを明確にしておく。	A	A	・SC、SSWと情報共有を強化することができたが、その後の経過を丁寧に見ていくことで継続性を持たせたい。定期的なケース会議を開催し、重大事案につながらないように、長期欠席者や内面に問題を抱えている生徒に対して、素早くアプローチをしていく。
健康教育の推進		重大事案につながらないように、長期欠席者や内面に問題を抱えている生徒に対して、素早くアプローチをしていく。	A			
教育相談の充実		SSWやSCを積極的に活用し、全職員で生徒の抱える問題や課題等の周知・対応を図る。	A			
自尊感情の育成	ホームルーム活動、学校行事の活性化を通じた帰属意識、自尊感情の育成	生徒の意見を反映できる行事を計画し、生徒の主体的な活動や自主性、課題解決能力を養う。	B	A	・感染症拡大防止のため、行事の開催そのものや内容が大きく制限され、生徒が主体的に実施することができなかったが、今後も感染症拡大防止の観点は必要であり、これを踏まえた企画・実施が求められる。昨年作成した代案を臨機応変に活用し実施したい。 ・人権教育に関しては、事前の研修のみならず、本年度改定した4ヶ年の指導計画において教員研修を行い、教職員の人権意識向上を図る。	
		学校行事の充実を図り、クラスや学校への帰属意識を高め、生徒が楽しく登校できるようにする。	B			
		生徒が自らを振り返ることで自尊感情を高めることができるような学校通信やホームページを作成する。	A			
	副読本「おおぞら」「かがやき」を積極的に活用し、他者の思いを想像できる力を高めていく。	A				
	人権感覚に満ちた教育環境の整備と生徒の育成	特設授業の事前事後研修を実施し、教員相互の実践交流を図ることで授業力を高めていく。 いじめ、不登校や問題行動などへの早期対応に向け、情報交換を密にし職員全体の意思疎通を図る。	A A			

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・追調査が複数出てしまった反省を生かし、次年度より実施する観点別評価の取り組みを生徒・保護者に丁寧に伝え、不断の授業改善を行い基礎学力の定着を目指す。
- ・生徒会活動に意欲を持った生徒・学校生活を大切に、前向きに活動しようとする生徒に対して、既存の学校行事だけでなく、インターンシップやボランティア等の企画を支援し生徒会活動の活性化を図る。
- ・教科教育並びに、HR・総合的な探究の時間の設定理念を再確認し、「どのような社会になってほしいか」「どのように社会にかかわっていくか」という開かれた教育課程の実現を目指す。

学校関係者評価

評価(総合)	自己評価は A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である
A	
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
B	・お互いの考えを尊重した授業が展開されている。定時制課程ならではの一人ひとりの学力に即したきめ細かな指導をお願いしたい。 ・ホームルームや総合的な探究の時間を活用して社会人基礎力の獲得を目指してほしい。
A	・自分の考えをわかりやすく相手に伝える力をつけ、自他を守る社会規範意識を育成をお願いしたい。 ・魅力ある学校行事を実施し、豊かな心の育成と地域を大事にし、地域に貢献できる態度を育成してほしい。
A	・多様化する社会に、多様な仲間たちと共生し、社会的、経済的自立を実現する学校・職業観や勤労観を持ち、仕事と学校生活の両立を目指している。学校内外の力を合わせ全員の進路獲得をお願いしたい。
A	・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーによる生活の質の向上を目指した相談体制や、関係機関との連携調整が図られている。
A	・感染症や風水害等にも適宜対応し、重大事故がなかったことは評価したい。SNS等の事件事故が報道されているが、生徒が被害者にも加害者にもならないように今後ともお尽力いただきたい。
B	・歴史と伝統を有する京楽地区唯一の夜間定時制高校であり、勤労青年のための夜間定時制課程という本来の役割と、様々な家庭環境や生活背景を持った生徒の学びと協働の場としての役割を果たしている。今後も、自己有用感や自尊感情を育てる居場所づくりをめざしてほしい。
評価項目以外のものに関する意見	